

課題名 担い手の定着と経営改善への支援		人づくり	京都乙訓農業改良普及センター
(1)普及指導事項（評価対象） ①新規就農者等の営農継続に向けた基礎講座の開催		(2)普及指導対象 新規就農者等 10 名程度(概ね就農 5 年まで：研修中を含む)	
(3)活動内容と成果			
・新規就農者等を対象として、6 月～12 月にかけて全 6 回の講座を開催。 ・講義や農業機械実習の実施を通じて、農業基礎知識や農業機械を利用した農地管理方法の習得を支援した。 ・農業機械実習については、過去の受講生や地域農業者からの要望に応えるため、本年度から講座内容に追加した。 ・今年度の講師の分担は以下のとおり。 座学 7 回…普及センター 現地研修 2 回…先輩農業者、京都府農業機械士 農業機械実習 2 回…元指導農業士、JA 京都中央 交流会 1 回…農業士 ・現地研修や農業機械実習では、受講生が効果的に知識・技術習得できるよう、企画段階から講師を務める先輩農業者や JA の農業機械担当者等と綿密に相談を重ね、農作業のポイントやコツが伝わるよう講座運営に取り組んだ。 ・農業士 2 名を交えての交流会や名刺交換会の実施により、受講生の横のつながりづくりを支援した。 ・受講生は講義や実習に前向きな姿勢で参加し、積極的に質問をすることで、普及指導員や先輩農業者との接点が多かった。また、交流会だけでなく講座の前後も和やかな雰囲気の中で、受講生同士の交流を深めていた。 ・これらの結果、受講生は農業の知識・技術を習得し、受講生自身の栽培の改善につなげることができるとともに、受講生同士のつながりが深まった。 ・受講生全員の理解度が高く、目標を達成する見込みである。（現時点で 100%）			
(4)コメント		(5)普及指導計画への反映状況、今後の活動等	
<要約> 講座について関係機関と連携した取り組みとなっており、受講者ニーズに合致していると思われる農業機械の講習を実施するなど、受講者レベルに応じて実習内容が設定され、新規就農者の営農継続・定着に寄与する取組と考える。また、農業の基礎知識の習得に加えて、交流会の開催により同じ目的や悩みを持つ仲間づくりや今後の相談の土台づくりがされており評価する。 今後、過去の受講生を含めた交流による農業者のネットワークづくりや、主体的な活動ができる意識の醸成、栽培品目の選択・拡大や、生産技術や経営能力の水準に応じたきめ細かな伴走支援など、修了者のフォロー体制についても検討いただきたい。		令和 7 年度の普及指導計画においても、引き続き受講生のニーズが高いと考えられる農業機械実習や実践的農作業講習の実施を計画しています。また、本年度受講生の意見を反映し、スケジュールを見直して交流会を前半に行うなど、運営上の問題点を確認し、改善することとします。 平成 28 年度から令和 5 年度までの 8 箇年の受講生のうち、営農継続中の講座修了者に対して今後の農業経営に係る意向調査を行うなどして、講座終了後のニーズを把握し、必要に応じて、栽培技術や経営指導など対象ごとに課題を設定するなど、修了者に対する効果的なフォローアップの在り方について検討を進めていきたいと考えています。	